

「南区防災力向上モデル」(案)の補足説明資料

前回、7月20日の意見交換会でいただいた委員の皆様のご意見をもとに、近藤部会長に一任させていただき、以前お示した「南区防災力向上モデル」を修正しました。以下、補足説明をいたします。

【表題】・・・7月20日の意見交換会でお示した案からの変更点

「独自」という文言を入れ、南区オリジナルであることを強調しています。

また「新しい」を「あたらしい」に平仮名に変更して、より平易で優しい表現にしました。

さらには「～広げるために」を「広げよう」と変更した意図は、みんなで取り組むことの呼びかけ、スローガンの要素を持たせたもの。

【目標】・・・7月20日の意見交換会でお示した案からの変更点

「命」を「いのち」と平仮名に変更し、より平易で優しい表現にしました。

また、この目標は「すべての区民」が対象となることから、よりシンプルにわかりやすくするため、「支援者・受援者として」の文言は割愛しました。

【内容全般】

それぞれの項目を「柱」と位置づけ、意見交換会での委員の意見をもとに再構成しています。

全体的な表現として「～しましょう」とし、みんなで作り上げるものとした体裁にしています。

【第1の柱】

オール南区として、みんなが知ること、みんなが備えることで南区全体の防災意識や防災力を高めていくこととします。

【第2の柱】

「防災福祉」を掲げ、誰ひとり取りこぼさないために、福祉避難所や福祉的避難場所の拡充を図り、みんなで支えあえる関係づくりを促進します。

【第3の柱】

自治会や小学校などの単位をこえた「広域の共助」も含め、「あたらしい共助」のかたちを確立していくこととしています。

【第4の柱】

家庭や地域、学校などのあらゆる場面で次世代の防災を担う人材を育てていくとし、防災人材育成の先進的なまちをめざすとしています。

【第5の柱】

平時から様々なメディアを使い防災の知恵を共有することや、災害時での地域コミュニティや助け合いにも情報が活用できるよう、情報の共有手段を拡充していくこととしています。

【それぞれの柱の相関性】

上記の5つの柱の関係性についてですが、「オール南区」に代表されているように、5本の柱の象徴的存在となる取組を第1の柱に据え、まず、「一人ひとり」に関する基本理念となる【第1の柱】、次に、助け合い包摂し合う「関係性」の理念となる【第2の柱】、そして、これまでの枠組に加えて、「既存の枠組を超えて」という南区独自の取組方針にかかわる【第3の柱】、最終的にここをめざすこととします。

防災人材の育成【第4の柱】と、防災情報の共有と活用【第5の柱】は、「一人ひとり」に関する基本理念となる【第1の柱】、助け合い包摂し合う「関係性」の理念となる【第2の柱】、これまでの枠組に加えて、「既存の枠組を超えて」という南区独自の取組方針にかかわる【第3の柱】をサステナブル（持続的）に進めていくための仕組み・仕掛け（人材育成・情報共有）となります。

取組が「点」からはじまり、それを「面」にし、更に「次代」に繋ぐための理念となります。

【今後の部会の方向性】

これらの柱をより具体化するため、委員の皆様には、ひらめきやアイデアを出していただきます。そして、部会の最終目標としては、それらを短期的な取組と長期的な取組に整理し、アイデアのカatalogとしてまとめていきます。